

気仙光陵支援学校

研究テーマ

「児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり・生活づくりを目指して」

～PDCA サイクルによる授業改善を通して～

(3年次研究3年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学びの実現」を踏まえた授業改善が重要視されている。

児童生徒が主体的に取り組む授業づくり・生活づくりに、系統性・発展性をもって取り組むことを通して、児童生徒が小学部から高等部まで主体的に活動し、達成感や充実感を感じる経験を積み重ねることにより、それが、将来の、自立し、豊かな充実した生活につながると考え、本テーマを設定した。

(2) 研究の目的

児童生徒の主体的に取り組む姿の実現に向けて、PDCA サイクルによる授業改善・支援の充実を図り、児童生徒一人一人が主体的に活動に取り組む授業づくり・生活づくりを目指す。

(3) 研究の内容

①学部毎に「主体的に取り組む姿」を押さえ、それを促す指導内容・指導計画を検討・立案する。

(2・3年次)

②授業実践をとおして「主体的に取り組む姿」を目指した授業改善(2・3年次)

(4) 今年度の実践

【全校研究】

①校内研究方向性の確認

②授業研究会の実施

(開かれた授業研究会との併催)

・第1回：小学部高学団 生活単元学習
高等部 選択教科「保健体育」

・第2回：中学部 保健体育
助言 学校教育課 主任指導主事
五安城 正敏 氏

・第3回：小学部低学団 遊びの指導

③研究のまとめ

【学部・寄宿舎研究】

①小学部

学部研究テーマに基づいて、合わせた指導の年間指導計画を見直し、教科の視点の取り入れ方や評価について検討した。授業改善シートの活用、見直しを行いながらPDCAサイクルを回し、児童が意欲的・主体的に活動できるよう授業づくりに取り組んだ。

②中学部

PDCA サイクルを回すためのツールとして今年度も「Actionシート」を活用し、保健体育と音楽で実践を行った。昨年度までの取り組みでリスト化した「主体性を表すキーワード」を参考にして目標を設定したり教科によって記録しやすいようにシートの様式や内容を改めたりして、より効率的に授業改善ができるようにした。

③高等部

選択教科の授業実践をとおして、授業改善シートなど活用し生徒が主体的に活動できた場面や活動できなかった場面をリストアップしながら研究を進めた。改善が必要な場面では、教科ごとに支援の方法を考え話し合い、次の授業に生かすことができた。教科ごとに授業改善シートを活用しながらPDCAサイクルによる授業改善をすることができ、生徒の主体性を引き出す授業づくりを行うことができた。

④寄宿舎

個別の生活指導計画の目標の三領域の中から一人1項目、主体性につながる目標を選択して、児童生徒の課題や目標を棟全体で共有し、個別の生活指導計画にリンクしたPDCAサイクル表を用い、月に一度、児童生徒の様子について話し合い、寄宿舎全体で確認しながら、より効果的な支援方法を検討しながら進めることができた。

2 高教研講演会

演題：「新学習指導要領を踏まえた授業づくり

～各教科等を合わせた指導における評価のあり方～」

講師：東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏

期日：令和2年7月29日(水)

対象：本校職員

3 刊行物 研究集録は刊行していません。